

## 次期総統選挙の前哨戦！立法委員補欠選挙は民進党が止血に成功！

石原忠浩（台湾・政治大学日本研究プログラム 助理教授）  
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

昨年11月の統一地方選挙で大敗した民進党は、1月27日と3月16日の立法委員補欠選挙で、現有議席を死守して、「止血」に成功することとなった。

### 1. 1月27日の補選は、民進党、国民党現有議席死守で「引き分け」

台湾の公職選挙法では、立法委員等公職に就いたままで他公職選挙への出馬が可能であるため、現職立法委員（選挙区選出）が首長選挙に当選した場合は、その欠員に対し3か月以内に補選を行う規定になっている。

なお、2016年の総統選挙で、国民党の朱立倫候補は、現職の新北市長でありながら、総統選挙に出馬している。朱市長は総統候補として2015年10月末から2016年1月の投票日まで選挙運動を行っていた期間は、関連法に基づき長期休暇扱いで選挙運動に従事していた。朱市長の休暇期間中は、当時副市長で現新北市長の侯友宜氏が代理で職務を全うし、総統選挙敗戦後に朱氏は市長に復帰し、2018年12月までの任期を全うしている。

昨年の統一地方選挙で、民進党の姚文智委員と国民党の盧秀燕委員は、それぞれ台北市長、台中市長選挙に出馬したが、双方とも、選挙戦終盤に背水の陣の意思を示すために立法委員を辞職したため、両名の当落にかかわらず、辞任の日から3か月以内に補選が行われることになり、1月27

日に補選が行われた。（首長選で姚は落選、盧は当選した。）

台北市第2選挙区は、民進党の何志偉前台北市議、国民党は再選直後の陳炳甫台北市議のほか、第三候補として、柯文哲市長の支持を受けた陳思宇台北市観光伝播局長が出馬し、有力三者の争いになった。

台中市第5選挙区は、国民党の沈智慧元立法委員と民進党の王義川前台中市交通局長との事実上の一騎打ちとなった。

台中は当初から、国民党優勢が伝えられていた通り、国民党が勝利した。一方で、本補選での注目は、民進党の強い選挙区で「上げ潮の国民党」と次期総統選挙出馬へ意欲を見せる柯市長が支持する「白色力量」の候補がどれだけ、民進党候補に迫るかが焦点となった。

投開票の結果は、台北は何前台北市議が、予想を上回る得票率で勝利した。（表1）一方で、「柯派」で実父も市議を務める陳思宇候補が得票率12%しかとれず惨敗を喫したのは、柯市長の人气が柯派の関係者に与える影響は限定的なことを露呈することになった。

1月の第一次補選は、民進党、国民党が現有議席を守ったことで、昨年11月の補選で「大躍進の国民党、凋落の民進党」という流れが加速しているか否かを判断するのは難しい結果となったが、凋落気味の民進党は一矢を報い、党勢浮揚の機会

表1 台北市第二選挙区の主要候補の得票数等

候補者	政党	得票数	得票率	当選
何志偉	民進党	38,591	47.76%	◎
陳炳甫	国民党	31,532	39.03%	
陳思宇	無所属	9,689	11.99%	

を掴むこととなった。

投票率は、両選挙区とも低迷し台北 30.39%、台中 25.34%であった。

## 2. 総統選挙の「前哨戦」3月16日の補選

1月の補選に次ぐ、第二次補選は、新北、彰化、台南、金門の4選挙区で実施された。新北第三選挙区は、民進党籍の高志鵬委員が汚職罪で失職したものに基づく補選であったが、他の3選挙区は、首長選挙の当選と立法委員辞任に基づく選挙であった。4選挙区の中では、彰化と金門は国民党が強く、当該選挙区での国民党の勝利は有力視され、世論の注目度も高くなかった。金門で民進党は公認候補は立てられず、国民党は藍系候補が無所属で出馬するなど分裂選挙となった。一方で、新北と台南は民進党が従来から岩盤の強さを誇り、勝利が当然視される選挙区であったこともあり、国民党にとってこの2つの困難な選挙区に昨年の統一地方選挙で吹き荒れた韓国瑜人気にあやかかった「韓流」がブームを巻き起こすか否かに注目が集まった。

国民党内では旧正月明け以降、次期総統選挙に向けて朱立倫前新北市長、王金平前立法院長が党内予備選への出馬表明をする中、基層支持層からは韓国瑜期待論が急速に高まり、呉敦義主席も同人への出馬に前向きな姿勢を見せるなど、韓市長の一挙手一投足に世論の関心が集まる異常な雰囲気の中で補選は展開した。

新北で民進党は著名芸能人で元立法委員の余天氏を擁立し、国民党は元台北県議の鄭世維氏が挑み、台南では、民進党の郭国文前台北市議と国民党の謝龍介市議の対決となった。選挙戦序盤の段階では、新北は知名度抜群の余天氏が有利な戦いをしていたが、侯友宜新北市長、盧秀燕台中市長、韓高雄市長が選挙応援に駆け付けるなどした戦略が功を奏し、投票一か月前には支持率が拮抗するようになっていた。

台南においては、前回2016年の立法委員選挙



民進党郭候補の活動会場

で現市長の黄偉哲が同選挙区で得票率75%を獲得したように、当該選挙区の有権者は7対3で民進党が絶対優勢と言われてきたが、本補選の民進党公認候補争いで敗退した民進党籍の陳筱諭が離党して無所属で出馬する分裂選挙になり、同人は「無断」で過去に陳水扁元総統と一緒に写った写真を選挙ポスターに使うなどして、陳水扁を未だに支持する「深緑」勢に広範な浸透を図るなどして揺さぶりをかけていた。国民党候補は、韓市長が昨年の選挙戦で用いたスローガンで「政治的論争を排し、経済重視あるのみ」を援用し、「国民の生活が最重要、そのために農魚産物を買って皆さんを豊かにできるのは自分」という巧みな宣伝と韓国瑜期待論の高まりを活用した相乗効果もあり、投票1か月前の段階で、ほとんどの世論調査で謝候補がリードする状況となり、国民党関係者



国民党の台南補選活動会場

からは「本補選で国民党が4-0で全勝するのも可能だ」など鼻息の荒い発言が聞かれた。

一方、民進党は党内で最も声望の高い頼清徳前行政院長が二期市長を努めた台南での敗北は、次期国政選挙での「民進党の負けは決まった」という諦めムードが一気に広がりかねないことから、選挙戦終盤は蔡總統、蘇貞昌行政院長、卓榮泰党主席ほか、地方首長が応援に駆けつけ、行政資源も惜しみなく投入するなどしてテコ入れを図った。

筆者は、投票日前日に台南に赴き、謝候補、郭候補の選挙キャンペーンを「体験」する機会に恵まれた。謝候補の会場は、大型の寺廟で開催されたが、平日の午後にもかかわらず、5千人規模の聴衆が集まり、会場周囲にはこの雰囲気を目見ようとした人々の車、バイクが駐車され、多数の



魚の解体ショーと国民党の謝龍介候補



頼清徳前行政院長らが郭国文候補とともに行進

警察が交通整理に追われていたのを目撃した。会場ではシイラなど生魚の解体ショーなどの余興で観衆を楽しませたほか、無料の軽食もふるまわれるなどお祭りムードの中でも、国民党（というよりも韓国瑜）への熱い期待を感じることができた。一方、民進党は夜に支持者の多い麻豆区の小さめの寺廟を起点に、郭候補のほか頼前院長、黄偉哲台南市長、鄭文燦桃園市長などが周辺道路を徒步行進し、聴衆に支持を訴えるなどし、こちらも大変な盛り上がりを見せた。しかし、民進党の活動に参加していた人々は、大型バスで会場に乗り付け里単位のプラカードを掲げた代表者に動員された支持者が多く、国民党に比べて自発的な参加者が少なかったのを痛感した。台湾で25年以上、選挙を見てきた筆者としては、「20年前の国民党と民進党の立場が完全に入れ替わった」のかという錯覚にも似た気分襲われ、国民党が「ついに台南でも勝つのか?」と思わせられる雰囲気であった。

投票結果：

3月16日の投開票結果は、民進党が新北、台南の議席を死守し（表2、表3）、国民党は彰化で勝利、金門は国民党を離党した無所属候補が勝利した。

新北市は勝利した余天候補が「韓国瑜に嚇かされた」と述べたように、当初の楽勝という雰囲気

表2 新北市第三選挙区の主要候補の得票数等

候補者	政党	得票数	得票率	当選
余天	民進党	56,888	52.04%	◎
鄭世維	国民党	51,127	46.77%	

表3 台南市第二選挙区の主要候補の得票数等

候補者	政党	得票数	得票率	当選
郭国文	民進党	62,858	47.05%	◎
謝龍介	国民党	59,194	44.31%	
陳筱諭	無所属	10,424	7.80%	

から、一転して大苦戦したことで、韓流に飲み込まれそうになった勢いに「びっくりした」という素直な感想を述べていたのが印象的であった。

台南は、郭候補が事前の下馬評を覆し、得票率で3%、得票数で約3千票にまで謝候補に迫られながらも辛勝した。勝利の背景には、頼前院長が19日間連続して郭候補とともに選挙区でどぶ板選挙を展開したことで、支持者への危機意識を高めたほか、陳元総統からの支持を取り付け、基礎支持層を固めたことで無所属の陳筱諭を周辺化させる戦略が功を奏した。実際、多くの事前調査で陳女史は10%以上の支持率を獲得しており、選挙戦終盤に、緑系有権者が国民党候補の当選を防ぐため独自に「棄保」を選択し、郭候補への票が集中したとみなせる。

なお投票率は、彰化36.59%、金門21.21%に対し、新北と台南は注目度の高さを反映してか新北42.10%、台南44.53%と異例の高投票率であった。

選挙後の両党の反応：

民進党は、選挙結果につき、蔡総統が「今日は一息つけたが、我々は決して気を緩めることはできない」と述べ、羅文嘉秘書長も新北と台南の勝利に関して「今回の結果は民進党にとっては勝利ではなく、止血でしかない」と依然と民進党政権は苦境にあることを踏まえたコメントに終始した。敗北した国民党は報道官が「目標は達成でき



朱立倫前新北市長が謝候補の応援に駆けつけた

なかったが、党は傲慢になることもなく、民意に沿った努力をしていく」と謙虚な姿勢を強調したほか、総統選挙への出馬を表明している朱立倫は「今回の選挙は困難な地域でも逆転する可能性を見いだせた」と一定の評価を下したように、複数の党関係者も「名誉ある敗北」との総括を行った。

民進党は、要人が指摘したように3月の補選では支持層流血の「止血」に成功し、党勢を上向かせられる可能性を示すことができた。

国民党は、困難選挙区で大健闘したものの、韓高雄市長頼みの選挙戦略の限界を露呈するとともに、次期国政選挙に向けた戦略の立て直しが必要となることを示した。

### 3. 選挙後の動き：民進党の総統選挙予備選に頼元院長が出馬へ

補選の勝利で「首一枚つながった」と揶揄された民進党にとって週明けの3月18日に、新たな激震が走った。同日は、民進党の総統選挙出馬希望者の党内手続きの初日であったが、同日午前頼清徳前行政院長が予備選出馬の登記を行った。

民進党内では、現職の蔡総統がすでに、再選を目指し出馬を表明していたが、多くの関係者は、蔡総統の再選に挑戦する有力候補はいないとの見方が大勢を占めていた。同党の規定では、予備選への立候補者が複数名いた場合、先に候補者間で話し合いを行い、候補者の間で妥協が成立しない場合は、候補者の政見討論会を経た後、複数の調査会社による世論調査で総統候補を決定することになっている。民進党のスケジュールでは4月中旬には、事実上の公認候補が確定する。

一方、政権奪還を目指す国民党は3月末の段階

で、韓市長の出馬の可否を含め、明確な党内予備選のルールが定まっておらず、腹の探り合いが続いている。

また第三候補として、出馬が有力視される柯文哲台北市長も「6月には出馬の可否を決定したい」旨発言しており、6月末までは、候補者選出をめぐる政治が展開予定である。

追記：民進党は4月10日に中央執行委員会を開催し、総統候補を決定する党内予備選を立法委員の公認候補を選出する党内選挙が終了する5月22日以降に実施する決議を行った。同決定に対して、頼清徳前行政院長は深い遺憾の意、民主価値の否定と党に対する深刻なダメージであると不満を表明した。一方、蔡英文総統は、今回の党内選挙は執政価値を防衛する戦いであるとし、党中央の決定に従う姿勢を表明した。この結果、民進党の総統候補の選出は早くても5月下旬以降にずれ込む見通しとなった。